ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-3	調査位置						北　緯	36 ° 45 ’ 36.4500 ”
発注機関	栃木県　矢板土木事務所			調査期間	2008-12-26 ～ 2008-12-26			東　経	139 ° 50 ’ 41.2800 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	258.81 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 34.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	4.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	257.66	1.15	1.15		黒ボク (Kb)	暗褐			表面30cm程度は未腐植根を多く含み緩く、0.55mまでは崖錐礫を所々に混じる。以深、比較的均質な性状となり、含水・粘性・硬度は中位。		
2					溶結凝灰岩 (Wtf)	暗褐 / 黄灰 / 暗黄灰			中硬区分の棒状コアとして採取される。淡い変色部を交えるが、概ね新鮮な感じを強く受ける。亀裂は割れ目と認識できるものは無く、密着したヘアークラックが少々確認できる程度である。2.3～3.0mにかけて、黄灰色の変色物を斑状に含む。基質部への変色は少ないが、割れ目沿いの酸化が顕著で幾分か脆質となっている。3m以深、割れ目沿いの酸化(黒色)を交えるが、非変質部分が優勢し、コア形状・硬度は安定する。		
3											
4	254.81	2.85	4.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 (0 10 20 30 40 50)
1.15	50 / 0			50 / 0	>50
1.15					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						12/26